

センターだより



令和6年度 12月号

四天王寺悲田院 児童発達支援センター

子どもたちの目標

- 「規則的な生活と元気な体づくり」
- 「意欲的にいろいろなあそびを楽しむ」
- 「自分のことは自分でする」
- 「家族以外の人と過ごすことができ、友達と仲良くできる」
- 「知らない所でもなじむことができる」
- 「気持ちや感性を適切に表現でき、落ち着いて行動できる」
- 「自分の意志を伝え、他人の意志を受け止められる」



12月の予定

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 9日(月) 運営協議会 | 23日(月) 避難訓練(センター棟) |
| 14日(土) 生活発表会①(ほし・そら・ゆき) | 27日(金) もちつきごっこ |
| 21日(土) 生活発表会②(つき・うみ・はな・にし) | 28日(土) ~1月5日(日) 冬季休園 |



○生活発表会について



12/14(土)と12/21(土)の2日間に分けて生活発表会を行います。子どもたちが4月から頑張ってきたことや出来るようになったこと等を、ご家族の皆様にご覧いただきたいと思っております。ご家族の観覧席につきましては、事前に子どもたちにくじを引いてもらい決定します。決まった観覧席の位置は決定次第、お知らせいたします。その他詳細は、既に配布しております『生活発表会のご案内』をご確認ください。

○もちつきごっこについて

12/27(金)はもちつきごっこを行います。クラス毎に保育棟ホールにて、上新粉で作った白い粘土をお餅に見立てて臼に入れ、子どもたちが1人ずつ杵を持ち順番にぺったんぺったん…と餅をつく体験を行います。センターでのお餅の試食はありません。お餅を食べられないのは残念ですが、つく体験を行うことで、季節の伝統行事の雰囲気を楽しめればと思います。ベストショットを楽しみにしててくださいね。



○次年度の進路について

幼稚園に願書を提出された方で、入園決定通知書が届きましたら職員までお知らせ下さい。

○感染症について

近隣では感染症が流行しています。急な高熱や長引く風邪症状で、疑わしい場合は受診先で検査を受けましょう。熱があがったり、さがったりが続く場合や、咳が続いている場合、下痢や軟便が続いたり、食欲がない、体に赤く発疹が出る等は、注意が必要です。

また病院受診の際に、インフルエンザや他の感染症の診断を受けた場合は、インフルエンザであれば何型(A型かB型か)かを含め、センターにご連絡をお願い致します。感染症と診断されましたら、コドモン「資料室」内にあります「出席停止を必要とする感染症一覧」をご確認いただき、登園の際には必要書類(登園許可証・登園届)の提出を忘れずお願いします。

体調を崩した時はしっかりと休養をとり、体調が回復した状態で登園頂きますよう、ご配慮をお願い致します。

○冬季休園について

12/28(土)~1/5(日)の期間は冬季休園となります。職員も出勤しておりません。この期間のご連絡については、保育ICTアプリ「コドモン」にご連絡頂きますようお願いいたします。但し、確認は1月6日(月)になりますので、ご了承ください。



♡子育てで大切なポイント♡

保育士 足立

子育てでは、お母さんやお父さんが子どもの見本となって色々なことを教えてあげなければいけません。お母さんもお父さんも人間であり、人間は誰も完璧ではありません。育児や仕事の疲れからついつい大きな声で怒ってしまったり、余裕のない振る舞いをしてしまったりすることもありますよね。疲れた時には、「どんな風に子育てをしていけば良いのだろう」ということが分からなることもあります。子育ての方針はそれぞれの家庭によってもさまざまですが、「子育てをする上で大切なこと」が何かをしっかりとっておきたいものですね。

子育てをするうえで大切なことはいくつもありますが、その中でも一番大切だと言われているのが「子どもの自己肯定感を育む」ということです。

自己肯定感とは、「自分は価値ある存在であること」「自分が大切な存在である」ことを子ども自身が受け入れ、理解することです。

自分に自信があるという感情とは違い、自分で自分を認めることができるかというのが自己肯定感で、幸福感は自己肯定感によって大きく左右されるとも言われています。

親なら誰も、子どもにはいつだって幸せを感じてほしいものです。自己肯定感を育むための5つのポイントをご紹介します。

① 子どもの感情を受け止める

子どもの感情はコロコロ変わるものです。怒ったり泣いたり、困ったりしているときは「泣いちゃダメ」「怒っちゃダメ」など子どもの感情を否定するのではなく、「いやだったの?」「〇〇したかったの?」とまずは一度受け止めてあげるようにしましょう。そうすることで、子どもは「どんな自分でも受け入れてもらうことができるんだ」と感じるすることができます。



② 当たり前な行動を褒める

親は当たり前だと思っても、子どもは気づかないところで努力しているかもしれません。いつもできていることでも「いつもえらいね」「かっこいいね」「手伝ってくれてありがとう、助かるわ」など、当たり前な行動だとしても褒めてあげるようにしましょう。



③ 他の誰かと比べない

他の兄弟や周りの友達と比べないということも大切です。知らないうちに比べてしまっていることがないか、考えてみましょう。

もしも誰かと比較して「あなたより〇〇ちゃんの方ができる」「〇〇ちゃん
はできるのにどうしてできないの？」という言葉をかけてしまっているの
であれば、それは子どもの自尊心を傷付けてしまっています。

誰かと比較するのではなく、「この前よりも上手になったね」など、本人
に目を向けてあげることが大切です。



④ プラスの言葉を使う

プラスの言葉を使う。もしも子どもが何か失敗してしまったときでも、マイ
ナスの言葉ではなくプラスの言葉を使うようにしましょう。

たとえば、積み木を重ねている時につぶれてしまった時は、「惜しかったけ
ど、また次がんばろうね。一緒にまた作ろう」などプラスの言葉を使って励ま
してあげるようにしましょう。

⑤ 必要な時には甘えさせてあげる

甘えることも、子どもにとって大切なことです。「買って、買って！」とお
もちゃ屋さんで子どもがわがままを言ったとき、これをすべて聞き入れてしま
うのは甘やかしです。一方で、「お話聞いて」や「お膝に座っていい？」など
は子どもの自立に必要な甘えであり、子どもの不安や寂しさを解消することにも
つながるため、甘えさせてあげましょう。

5つのポイントも親御さんに余裕が無ければ 対応が難しいものです。イラ
イラしたり、行き詰まった時は一旦 立ち止まり、深呼吸をして心に余裕を持
ってから接してあげると良いでしょう。

<まとめ> 子どもに一番近い存在である親御さんが子どもを認めてあげること
で、自己肯定感を育むことができます。子どもとの大切な時間を楽しく一緒に
過ごしてみてくださいね。

(参考文献)

子育てのポイント「自己肯定感」を高める」とともに育つ・育む まみたん
自己肯定感をグッと高める！子どもへの接し方 みらいい